

# 日本福祉教育・ボランティア学習学会 学会ニュース

Japan Academic Association of Socio-education and Service Learning

No.62

2017年2月23日  
発行

発行人：原田正樹 編集委員：佐藤 陽 秋貞由美子 熊谷紀良  
〒162-0845 東京都新宿区市谷本村町3番27号 ロリエ市ヶ谷3階  
TEL.03-5227-7101 FAX.03-5227-7102 Eメール jimukyoku@jaass.jp

## 会長の就任にあたって

会長 原田正樹 (日本福祉大学)



地域共生社会をどう実現していくか。その中核的な取り組みは、福祉教育・ボランティア学習であると思う。私たち一人ひとりの意識のなかで、「共生」という価値をどう内在化することができるか、そのことが福祉や教育、あるいは従来の社会の枠組みを越えて問われている。まさに福祉教育・ボランティア学習の「出番」である。

第22回大会(都城市)の総会で、会長の就任挨拶として「存在感のある学会にしたい」と抱負を述べた。会員の皆さんたちと一緒に3つの点で本学会の存在感を創り出したい。

第一に、**学術的な探求と創出**である。福祉教育・ボランティア学習に対して、学際的な研究領域から注目される研究水準と求心力が必要である。そのためには「研究紀要」・「大会」の質的向上、「研究倫理」の遵守、何より「共同研究」の活性化を図りたい。

第二は、**実践の広がり**と**ネットワーク**である。多様な実践主体の拡大を図っていく必要がある。社協、学校、大学、福祉施設、社会教育施設、NPO、企業など…そうした多彩な関係者による都道府県の単位での実践研究のネットワーク化がでないだろうか。その際には「ふくしと教育」の普及と活用を図りたい。

そして第三に、**社会への発信・提言**をしていくことである。さまざまな側面で人の生き方と社会の有り様が問われている時代にあって、私たちの学会はもっと発信・提言していかなければならない。各地で広がっている新しい実践や国の政策動向の分析、学際的また国際的な研究動向の紹介など、やれることは沢山あるのではないか。もちろんそのためには、1で示した基礎的な研究があつてのことである。

また現在、学会運営は赤字構造に陥っている。立て直していくためには事業の縮小ではなく、会員の拡大によって乗り越えていきたい。具体的には3年間で会員数800人を目指したい。そのため毎年、約100名の新規会員(退会する会員は年間40名)を獲得していかなければならない。それは大変なことであるが、まさに福祉教育・ボランティア学習を大切に想う同志を増やしていくこと、そのことが研究や実践を通じた「運動」にもつながる。

今まで学会を積み上げて来てくださった先輩諸氏たちの研究や実践に学びながら、次の時代を切り拓いていける学会でありたいと思う。会員の皆さまのお力添えをお願いいたします。